

『おはようございます！突然ですが、「目には青葉 山ほととぎす 初鰹」という句があります。山口素堂（やまぐち そどう）という人の句です。この俳句、実はルール破りの句なのです。俳句は五・七・五の組み合わせで作りますが、この句の最初は「目には青葉」と、六文字。「字余り」というルール違反です。「季語」と言う、「季節」を感じさせる言葉を一つ入れるのも俳句のルールなのですが、この句には「青葉」「ほととぎす」「初鰹」と、「夏」の季語が三つも入っている。「季重なり」というルール違反もしています。上手でない人が作った句という訳ではなくて、考え抜いた上にわざとしているのです。

五〜六月のちょうど今頃の季節は、目にはみずみずしい青葉がすてきに見えて、耳には山に響くほととぎすのよい声が聞こえ、口にはとれたての初鰹がおいしいころですよという意味の句で、「耳には」「口には」という言葉を省きながらも感じさせるために「目には青葉」と、わざと字余りにしているのです。ほととぎすという鳥は、「キョツ、キョンキョキョキョキョ」と鳴くので、「特許許可局」と鳴いているように聞こえる鳥とも言われています。初鰹は今頃捕れる鰹のことで、黒潮を南の方から北の方の上って来るので「上り鰹」とも言われています。

今の六年生が五年生の時に、グローバルエクスカーションの紹介のため、鰹のわら焼き

を学校で調理し、私もお手伝いをしました。その時に五年生が私に作ってくださったはっぴがこれ。（実物提示）この鰹、イメージ的には「横じま」の魚に見えます。ところがどっこい、魚類学の決まりでは「縦じま」の魚となります。魚類学では頭や口を上、尾を下にした状態で、しま模様を見ます。だからこの絵は「縦じま」になるという訳です。頭がこんがらかりそうかな？しかも、横じまに見えるこの縦じまは、鰹が死んだときに出るしまで、普段生きている鰹が、えさの魚を追いかけている時や興奮したときに、背中の方に（縦じまに見える）横じまが出るのだとか。



徳川家康さんが江戸に幕府を開く前の頃、山内一豊（やまのうち かずとよ）というお殿様が、寄生虫による死者が出ないように鰹を刺身で食べるのを禁止。「こんなおいしい刺身が食べられないなんて…」と考えた漁民が、刺身がいけないのなら、あぶればいい。これなら「焼き魚」だから食べても文句はないでしょうということ、始まったのが高知の鰹の「わら焼き」や「たたき」という説があります。「禁止」のルールを守る！? ためにというか、知恵を使い、どうにかルールを守っているように見える方法を工夫した例と言えるでしょう。

目白のこの校舎で生活する上で、窮屈に感

じるルールもあるかもしれません。学校内でのルールに関しては、君たちと先生たちがじっくり話し合いをして、知恵を使い工夫しておかしなルールと思うなら、それを変えたり、改善したりしたいと、私は思っています。ここで生活しながら、君たちと先生たちと一緒に考えていきましょう。

ただし、変えてはいけない、どうあっても守らなければいけないルールが、学校の外には存在します。たとえば、駅のホームにある黄色の点字ブロック。目の不自由な方のためにあります、君たちがその上に乗っていたり、足をかけていたりすると、甚だ迷惑です。ブロックの上には足をかけることもないようにならなくて並んでください。

電車に乗るために階段やホームを走りたくなる時もあるかもしれません。気持ちは分かれますが、階段・ホーム上は決して走らないように！走らなくても電車に乗るためのコツ。それは、時間に余裕を持つことです。

学校の外にはルール破りの通じないきまりが存在します。そのルールを守っているように見せかけることも通じない、どうあっても守らなければならないルールは、命がけで守ってください。

最後にひとつ。日本には世界で一番堅いとされる食べ物があります。今日の話に関係のある物です。さて、何でしょう？

（立教小学校校長 田代 正行）